

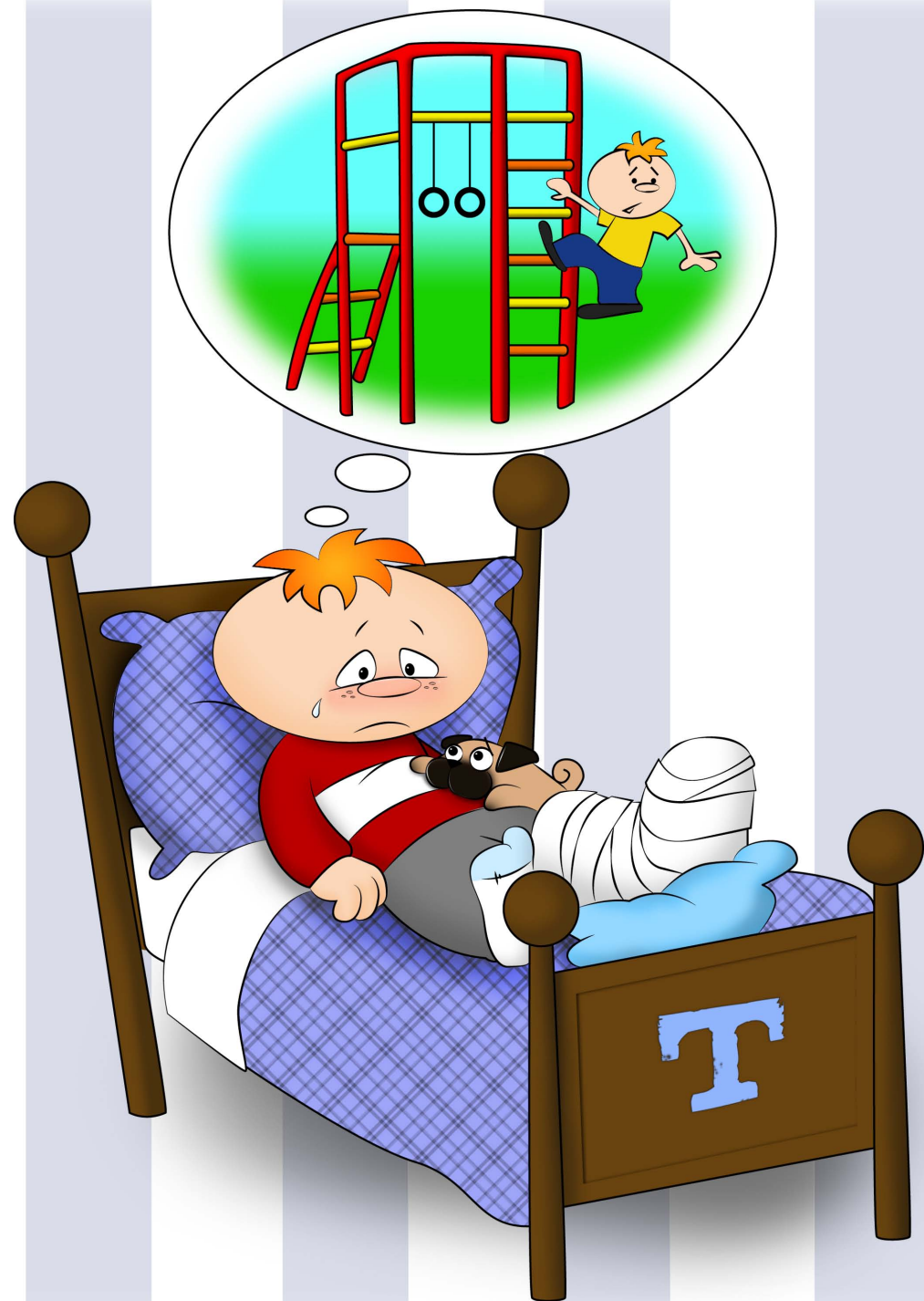
さいこう 最高の クリスマス

トーマスは窓の外をながめながら、ため息をつきました。
外では、ひらひらと雪がまい落ちています。ずっとクリスマスを
楽しみにしていたのに、今は悲しい気分なのです。その時、
部屋のドアをたたく音がしました。

「どうぞ。」と言うと、ドアが開き、妹のケイトが入ってきました。

「今朝は足の具合、どう？」 ギブスのはしっこのほうを
そっとたたきながら、ケイトがたずねました。

「うん、だいじょうぶ。」 ふと、公園の遊具から落ちた時の
ことを思い出して、トーマスは頭を横にふりました。すごく
高い所から落ちたわけではなく、タワーに登っている時に
バランスを失って、へんな落ち方をしたため、足の骨を
折ってしまったのです。「クリスマス前にこんな事が起こる
なんて。いつもクリスマスにやる楽しい事もできずに、
ただ自分の部屋に閉じこもってなくちゃいけないなんてね。」





「あのね。それが理由で、来たのよ。クリスマスは
1年の内でもお兄ちゃんの大好きな時だから、わたしが
お兄ちゃんのクリスマス・パートナーになろうと思って。
だって、あっちこっちに行くのに助けが必要でしょう。
お兄ちゃんがしたいことを、何でもいっしょにやるのよ！
毎日、クリスマスらしいことを一つずついっしょに
やってくるの、どう？」

トーマスはにっこりと笑いました。「ありがとう、ケイト。
すごくいいと思うよ。」

「よかった。わたしも、いい考えだと思ったの。でも、最初に
何をやるか決める前に、お兄ちゃんをおどろかすものがあるのよ。」
ケイトは部屋を出て、1分もたたないうちに、
クリスマスのかざりつけがされた車いすをおしながら、
もどってきました。取っ手には赤と銀色のふさ、背もたれの
後ろにはクリスマスリース、それに電池で点滅する
ライトまでかざりつけられています。トーマスのお気に入りの
クリスマスベルは、ひじかけに下げられていました。

「今朝、パパがこれを借りてきたのよ。だからあたし、
お兄ちゃんのために かざりつけをさせてって、お母さんに
たのんだの。クリスマスを楽しむためには、これが 必要に
なるものね。」ケイトは わくわくしながら とび回りました。

「すごーい。部屋を 出られるなんて、いい 気分。」と、
トーマス。

トーマスは 暖かい かっこうをし、ケイトの 助けを
借りて 車いすに 乗りました。庭に 出て、雪で 遊ぶのです。

トーマスは、何とか 雪を 固めて、ケイトといっしょに
雪だるまを 作ることが できました。

トーマスは、出来上がった 大きな 雪だるまを 見て、
うれしくなりました。緑色の スカーフを まいて フェルトの
ぼうしを かぶせ、にんじんの 鼻をつけると、たいそう
立派に 見えました。





その夜、トーマスの^{よる}友だちが^{とも}何人も^{なんにん}お見まいに^み
来^きました。ケガをしてから^あ会^はうのは、初^{はじ}めてです。みんな、
トーマスを^{げん}元^き気づけるために、いっしょに^{あそ}遊^{あそ}ぶための
ゲームや^みお見まいの^{しな}品^もを持^もって、やっ^きて来^きたのです。
その夜、トーマスは^{よる}満^みたされ^きた^も気持^きちで^もベッ^もドに^も
入^{はい}りました。今^{ことし}年の^{おも}クリスマスは、思^{おも}ったほ^{わる}ど^{わる}悪^{わる}くは
な^{おも}さそ^{おも}うだ^{おも}なと^{おも}思^{おも}い^{おも}な^{おも}が^{おも}ら^{おも}・・・。

(みんなの^{しんせつ}親^{かん}切^{しや}に^{なに}感^{かん}謝^{しや}する^{なに}た^{なに}めに、何^{なに}が^{なに}で^{なに}き^{なに}る^{なに}だ^{なに}ら^{なに}う?)
と、トーマスは^{かん}考^{かん}え^{かん}ま^{かん}し^{かん}た^{かん}。友^{とも}だ^{とも}ち^{とも}が^{とも}来^きて^きく^きて^き、本^{ほん}当^{とう}に^{ほん}
う^{ほん}れ^{ほん}し^{ほん}か^{ほん}つ^{ほん}た^{ほん}た^{ほん}の^{ほん}です。い^{ほん}や^{ほん}な^{ほん}事^じ故^この^じこ^じと^じな^じど、ほ^{ほん}と^{ほん}ど
わ^{ほん}す^{ほん}れ^{ほん}て^{ほん}し^{ほん}ま^{ほん}つ^{ほん}た^{ほん}く^{ほん}ら^{ほん}い^{ほん}です。

トーマスは、ある^{めい}名^{あん}案^{おも}を^{めい}思^{おも}い^{おも}つ^{おも}い^{おも}て、つ^{めい}い^{めい}に^{めい}ね^{めい}む^{めい}り^{めい}に^{めい}
つ^{めい}き^{めい}ま^{めい}し^{めい}た^{めい}。家^か族^{ぞく}や^か友^{とも}だ^{とも}ち^{とも}の^{とも}た^{とも}めに、今^{ことし}年の^{ことし}クリスマスを^{ことし}
と^{とく}く^{とく}べ^{とく}つ^{とく}な^{とく}も^{とく}の^{とく}に^{とく}し^{とく}た^{とく}い^{とく}・・・。い^{とく}つ^{とく}も^{とく}の^{とく}よ^{とく}う^{とく}に^{とく}は^{とく}動^うき^う
回^{まわ}れ^{まわ}ま^{まわ}せん^{まわ}が、一^{いち}番^{ばん}大^{たい}切^{せつ}な^{ひと}人^{ひと}た^{ひと}ち^{ひと}に^{ひと}す^{ひと}ば^{ひと}ら^{ひと}しい^{ひと}時^{とき}を^{とき}
過^すご^すし^すて^すも^すら^すえ^すそ^すう^すな^すアイ^{おも}デ^{おも}ア^{おも}を^{おも}思^{おも}い^{おも}つ^{おも}いた^{おも}の^{おも}です。

つぎ ひ きょう なに き
次の日、今日は 何をしたいかと ケイトが 聞きに
きた 時、トーマスは この アイデアについて 話しました。

「そうだ! こうさくよう ざいりよう つか
「そうだ! 工作用の材料を使ってできることが
あるわ。」 トーマスの くるま いすを ダイニングルームに
おして行くとちゅう、ケイトが 言いました。まもなく、紙の
クリスマスの くつ下をつく ための 材料が テーブルの
うえに そろいました。

かみ した で き あ
紙の クリスマスの くつ下が 出来上がると、トーマスは
それぞれの くつ下に した かぞく とも なまえ つ
それぞれの くつ下に 家族と 友だちの 名前を 付けました。
トーマスの けいかく とは、クリスマスまでの まいにち
それぞれの くつ下に 紙切れを 1枚ずつ 入れていくというものでした。
かみ き ひと かんしゃ
紙切れには、それぞれの 人について 感謝していることや、
らいねん ひと か
来年 その 人のために してあげたい ことなどを 書くのです。

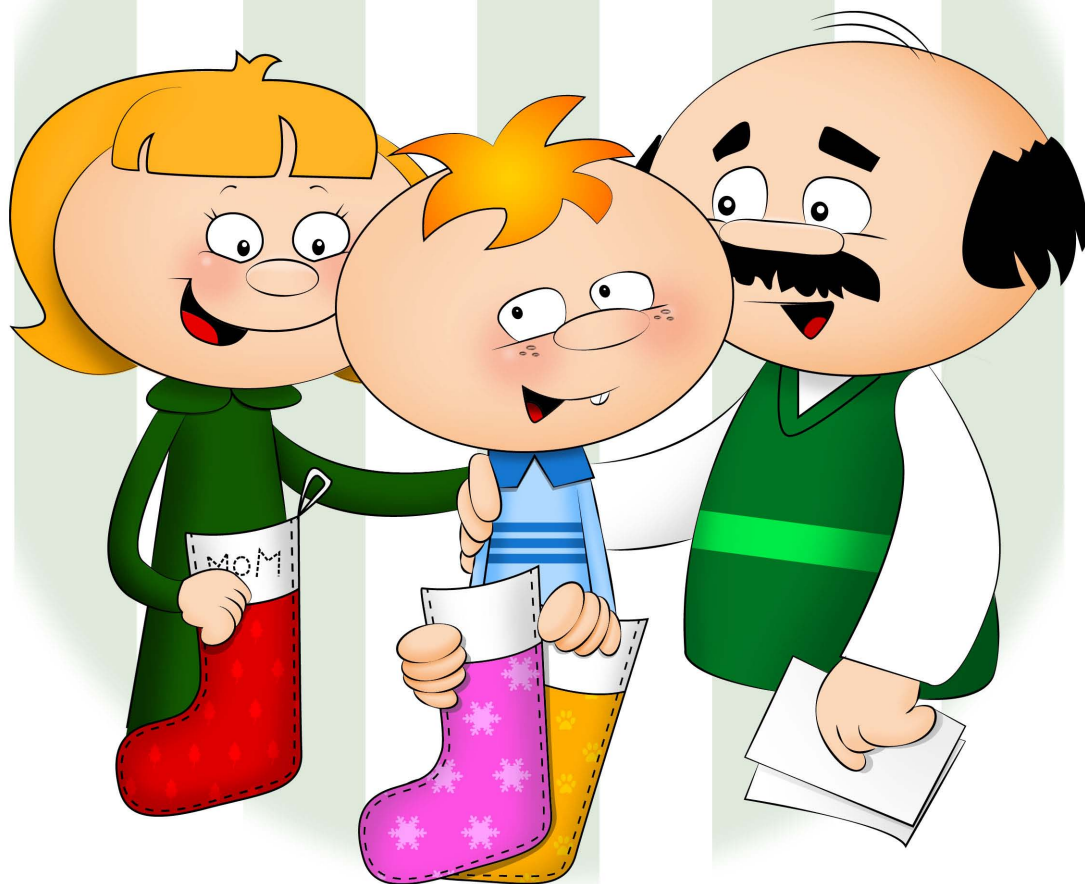


ほかの^{ひと}人たちのために^{なに}何をしてあげられるか
考え^{かんが}れば 考え^{かんが}るほど、トーマスは もっと^{しあわ}幸せな^{きぶん}気分
になりました。そして、最初^{さいしよ}に ケガ^{とき}した 時に どんなに
悲^{かな}しかったかなど、すっかり わすれてしまいました。
そして、この ことが、^{じつ}実^{ことし}に 今年^{いま}の クリスマスを 今^{さいこう}までで
最高^{さいこう}の クリスマスに してくれる ことになるのです。

クリスマスイブになりました。この 小^{ちい}さな 家^か族^{ぞく}は
暖^{だん}炉^ろの 周^{まわ}りに 集^{あつ}まって、クリスマスキャロルを 歌^{うた}いながら、
お母^{かあ}さんが 作^{つく}ってくれた とびきり おいしい ジンジャー
ブレッドクッキーと アップルサイダーを 味^{あじ}わって
いました。

何^{なん}曲^{きよく}か 歌^{うた}うと、トーマスは 自^じ分^{ぶん}の 作^{つく}った くつ^{した}下^{した}の
おくり物^{もの}を、ほこらしげに 家^か族^{ぞく}に 配^{くば}りました。「今年^{ことし}の
クリスマス^{とくべつ}を ぼくのために 特別^{とくべつ}な ものに してくれて、
ありがとう。いつも クリスマスに やる お気^きに入^いりの ことは
できなかつたけれど、ぼくが 今年^{ことし}できた 特別^{とくべつ}な ことも、
すごく たくさん あったんだ。だから、すごく 幸^{しあわ}せだよ!」





お母さんは自分のもらったくつ下の中を
のぞきこみ、紙切れを1枚取り出して、トーマスが
書いたことを静かに読みました。「お母さん、ぼくたちの
家族を、本当によくめんどろみてくれて、ありがとう！
手伝ってほしい時にはいつでも、お皿洗いを手伝うって
約束するよ。」お母さんはほほえんで、トーマスの
頭にキスしました。「ありがとう、トーマス！とても
気が利くのね。」そう言って、くつ下の中にまた手を
入れました。

お母さんがもう1枚のクーポンを取り出している
間に、お父さんが自分のもらった紙切れを読み
終わって顔を上げました。「トーマス、うれしいよ。車を
洗ってくれるんだね。おまえがちゃんと自分の足で
立って動き回れるようになったら、ぜひお願いするよ。
ここに入っているほかの宝物が何なのか、楽しみだな。」
そう言いながら、お父さんはもう1枚の紙切れを取り
出しました。

ケイトがトーマスのところにとんできて、大きな
ハグをしました。「わたしが お友だちのところ
とまりに行っている 間、犬の 世話をしてくれるなんて、
ありがとう。」 そう 言うと、ケイトは ほほえみながら、
トーマスと 書かれている 紙の くつ下を 差し出しました。
「わたしも、お兄ちゃんのために 作ったのよ。クリスマス
お兄ちゃんにとって 特別に したら、わたしにとっても、
すごく 楽しい クリスマスになったわ!」

トーマスは、これ以上 ほほえむ ことが できないくらい、
顔いっぱいの 笑顔になりました。本当に 幸せでした。
「これこそ、本当に 最高の クリスマスだね!」 トーマスは
元気な 声で 言いました。

お
終わり

